

## 2014 年度第 132 回秋期研究発表会印象記 「広がりゆくプリンティング技術」

野村 昭 寛\*

Akihiro NOMURA\*

(一社)日本印刷学会による第132回秋期研究発表会が、画像関連学会連合会の第一回秋季合同大会として、2014年11月20日(木)、21日(金)に、京都工芸繊維大学の共催により、同大松ヶ崎キャンパスにて開催された。画像関連学会連合会は、画像諸分野における学協会活動に関する相互の情報連絡の便宜を図り、連合会活動および共同活動を通して画像諸分野の発展並びに普及を行い、併せて社会に貢献することを目的として2014年4月に設立された団体で、日本画像学会、画像電子学会、日本写真学会、日本印刷学会が所属している。今回は、画像関連学会連合会が協同事業として実施する初めての合同大会となった。

合同大会のため印刷学会以外の催しもあり、1日目(20日)午前からは日本画像学会主催の技術講習会、午後からは画像電子学会講演会、日本写真学会講演会、機器展示が行われた。(機器展示は翌日の14時まで開催され、21日の昼食休憩時に出席企業によるランチオンセミナーも行われた。)印刷学会への参加登録で、他の合同大会の催しに参加(一部有料)できたので、他学会のイベントにも参加された方も居られた。

また、午後4時30分からは60周年記念館1F記念ホールで、岡山大学客員教授、京都大学名誉教授であり京都工芸繊維大学名誉教授(前学長)である江島義道氏による全体基調講演『知っておきたい視覚のメカニズム』が行われた。視覚メカニズムをわかりやすく講演され、生態学的・進化的視点から「動物の視覚機構は生息環境に適応するように進化した結果である」こと、脳の代謝的・解剖学的・生理学的・機能制約の視点から「視覚系の情報処理は情報論的に最適化された表現になっている」こと、文脈情報処理の視点から「見えは環境、過去の経験・先験的知識(記憶)に影響される」ことに関して心理的過程と脳機構について話された。また、空間認知の研究例として、京都龍安

寺「石庭魅力謎」を、認知科学的手法で解き明かした研究を紹介された。

全体基調講演終了後には情報交換会が開催され、印刷学会だけでなく他学会の方々との交流を深める機会となった。

2日目(21日)午前は、4学会5会場で各学会毎に研究発表が行われた。印刷学会はG会場(総合研究棟4F多目的室)で、佐藤会長による開会挨拶の後、10件の一般発表が行われ、研究成果の発表・討論が行われた(写真1)。今回の合同大会では、参加登録した学会だけでなく他の学会の研究発表会も聴講可能となっていたので、会場を移動して他学会の研究発表を聴かれる方も見られた。

午後は、4学会の垣根を取り払い、各学会の発表を分野毎に再編成して、3会場で一件3分以内のショートプレゼンを行った後、すべてのポスターを一つの会場に集めて、参加者とディスカッションする方式が行われた。印刷学会からの発表は14件で、他学会からの発表も含め、46件のポスターが掲示され、それぞれの研究成果が報告された。他学会の研究者と討論できる良い機会になったと思う。

今回の合同大会では4学会合同の予稿CDが配布されるなど、これまでの印刷学会単独ではなかった試みも多く、従来の研究発表会とは違った機会を提供できたのではない



写真1 会場風景

\* (一社)日本印刷学会研究発表委員会副委員長  
(株)SCREENホールディングス  
(〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町322)

## 印象記

かと思う。これまでの印刷学会の良いところも残し、新たな発展につながることを期待する。

2015年6月には、画像関連学会連合会所属の4学会と映像情報メディア学会の主催により、国際会議 ICAI2015

(The 1st International Conference on Advanced Imaging 2015) が東京で開催される。普段聴く機会の少ない海外からの発表も予定されているので、ご興味のある方はご参加いただきたい。